

会 議 録

令和6年度	日時	令和6年6月29日(土) 10時～11時30分
第1回 焼津市子ども・子育て会議	場所	焼津市役所本庁舎会議室1B
議 題	(1) 第2期焼津市子ども・子育て支援事業計画に係る令和5年度実績報告 (2) (仮称) 焼津市こども計画の策定について	
出席者 27人	(委員氏名)	(所属団体名・役職等)
	永田 恵実子 武藤 裕子 村松 幹子 今村 均 鈴木 正志 森岡 真樹 山下 庸介 池田 媛香(代理) 星野 真寿美 岩ヶ谷 江理 片山 康俊 飯妻 宏典 大石 結香 飯塚 陽成	静岡福祉大学 子ども学科 保育・教育実習センター長 教授 大井川西小学校 校長 焼津市保育園協会 会長 焼津市私立幼稚園協会 会長 焼津市社会福祉協議会大井川支所 所長 焼津市保育園保護者会連合会 会長 焼津市私立幼稚園 PTA 連絡協議会 会長 焼津市公立幼稚園 PTA 代表会長 焼津市 PTA 連絡協議会家庭教育学級副委員長 放課後児童クラブほしのこクラブ 保護者代表 志太地区労働者福祉協議会 副会長 焼津公共職業安定所 所長 静岡福祉大学 学生 静岡福祉大学 学生
欠席者 1人	(事務局氏名)	(所属・職名)
	杉山 佳丈 岡村 昇 堀内 千穂 小長谷 邦博 飯塚 宏慈 山本 奈央 鈴木 和希 一ノ瀬 いずみ 朝倉 満 尾村 哲哉 関 章乃 下村 千鶴子 植村 和広	こども未来部 部長 こども未来部 次長 兼 こども相談課長 こども未来部 子育て支援課 課長 こども未来部 子育て支援課 子育て政策担当 主幹 こども未来部 子育て支援課 子育て政策担当 主査 こども未来部 子育て支援課 子育て政策担当 主任主事 こども未来部 子育て支援課 子育て政策担当 主事 こども未来部 子育て支援課 給付担当 係長 こども未来部 こども相談課 こども家庭相談担当 係長 こども未来部 保育・幼稚園課 保育・幼稚園担当 係長 健康福祉部 健康づくり課 母子保健担当 主幹 学校福祉部 子ども支援課 青少年教育相談センター 所長 学校福祉部 家庭支援課 放課後支援担当 係長
欠席者 1人	吉田 公輔	焼津商工会議所青年部

- 1 開会
- 2 委嘱状伝達
- 3 市長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 会長・副会長選出
- 6 会長挨拶
- 7 第2期焼津市子ども・子育て支援事業計画の概要、
子ども・子育て会議委員の役割について
(1) 第2期焼津市子ども・子育て支援事業計画に係る令和5年度実績報告
(2) (仮称)焼津市こども計画の策定について

【議長】

本日の案件は2件です。まず、議題①「第2期焼津市子ども・子育て支援事業計画」に係る令和5年度実績報告についてです。質疑応答、御意見等は、最後にお受けさせていただきます。事務局、お願いします。

【事務局】

ー 資料2及び3に基づき、事業内容を報告 ー

【議長】

事務局の説明が終わりました。御意見、御質問等がありましたらお願いします。

【委員】

私も3人の子どもがおりまして、いろんな事業を利用させていただいてきました。その中でファミリーサポートセンターの利用をしておりましたが、ここ何年か減少しているのはどんなところが考えられるか教えていただきたいと思います。

また、私が利用をしたときに少し感じたのは、直接窓口で手続きをしなくてはならないとか写真を撮らなくてはならないとか、手間が掛かる部分があつて、なかなか利用が進まないのか、そのあたりをどう考えているのか教えていただければと思います。

【議長】

ありがとうございます。事務局から説明をお願いします。

【事務局 子育て支援課】

ご意見ありがとうございます。

ファミリーサポートセンター事業について、まず減少している理由についてですが、正直会員数そのものも徐々に減ってきています。お子さんが減っていることもありますし、今までコロナ禍であったところももしかしたら影響しているのかもしれないですが、事務局でもはっきりとした原因は整理ができていない状況であります。

会員登録の仕方が大変というご意見についてですが、お子様の命をお預かりするとい

うこともございますので、アレルギーの有無であったり、配慮が必要であったりとか、お子様の特性について直接窓口で丁寧に確認をさせていただきたいというところもあります。

実際に利用する際にマッチングするにあたっては、面談を事前にしていただく関係で、特に初めて利用される方にとっては手間がかかってしまう状況です。

ただ、現状では1ヶ所しか手続きできる窓口がないものですから、事務局としては、その辺りを改善していきたいと考えているところでございます。

【委員】

ロゴフォームなどでワンクッション申し込みが軽くなると、繋がりがやすいのかなと思ったりもしました。

【事務局 子育て支援課】

ありがとうございます。

【議長】

他にご意見いかがでしょうか。

また何かお気づきの点があれば言っていただければいいかなと思います。

本件につきましては、他に意見無しということで進みたいと思います。

【議長】

つづいて、議題②「(仮称)焼津市子ども計画の策定について」です。事務局より説明をお願いします。

【事務局】

－ 資料4及び5に基づき、説明 －

【議長】

事務局の説明が終わりました。御意見、御質問等がありましたらお願いします。

【委員】

新しい計画に大いに期待するところではあります。国の計画、それから県の計画、それに基づいた市の計画ということになるわけですがけれども、お願いしたいことは、どこを切り取っても同じ金太郎あめのような計画にならないでいただきたい。

焼津市独自の取組みが、見えるといいかなと思います。

そこでお願いしたいのが、この計画を支える人たちへの対応です。例えば保育士だったり、幼稚園教育の場の教諭の方々だったり、この方々がちゃんとこの計画の中で満足してその計画を実施できるかどうかということが、大切だと思いますので、そういう現場の方への聞き取りもしていただくことはできませんか。

もちろん、私はこの計画に基づいて焼津市の子どもたちの生活を支えたいと思うし、

保護者の子育てを支えたいと思っておりますが、とかく様々な施策が打ち出されて、それが下りていく状況にあります。

その状況の中でできることとできないことはもちろんあるのですけれども、やらざるを得ないっていうこともたくさんあります。例えば保育の現場それから教育の現場でも子育てをしながら仕事をされている方々もいらっしゃいますし、結婚していても子どもが持てないという方もいらっしゃると思います。

それはなぜかと言ったら働き方が酷だからだと私は思います。であれば、こういった方たちの出生率を上げていくということも必要なことかと思っておりますし、なおかつ人材不足もありますので、そのおかげでいわゆる受入体系を受入れないという、計画になかなか記載できない、答えられないような状況も生まれてきています。そういうところがなぜかというところもご理解をいただいて、計画に反映していただきたい。

常々お願いしているのは、こども真ん中はわかりますが、私達も真ん中に入れてほしいと思っております。いろんな方が真ん中になっていいと思うのです。こども真ん中・保護者真ん中・支える人真ん中ってというような柱立ての計画にさせていただけると、その中で私達が果たす役割は何かということが見えてくると思います。

今この計画を読ませていただくと、そのこのところは一切出てこないの、若干腑に落ちないところがありました。

それから、子育て支援に関するアンケート調査の集計結果の2ページの一番下に、幼稚園保育所に係る経済的負担の軽減ということを保護者の皆さんは期待されていますが、これ以上何を軽減すればいいのかと思っております。

確かに、0, 1, 2歳児のお子さんの保育料は、まだ無償化になっていませんが、焼津市では第2子から保育料無償化になってきていますので、本当にもう以前に比べたら手厚くされている状況の中で、なおかつ費用負担を軽減してほしいと思われているご家庭が非常に多いということは、確かに様々な施策が皆様の中に当たり前のこととして息づいているのかなと思っておりますけれども、そのこのところの財源がどうやって生み出されたかという仕組みを啓蒙していくことも必要なのではないかなと思っております。

その中で市民がありがたいと思う、ありがたいという言葉は使いたくはないのですけれども、私達の権利が守られているのは、こういう仕組みによってなのですよというところもご理解をしていただけるようになると、いろんなサービスを提供する側としては、納得できるかなと個人的には思います。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

まず1点目の支援者の意見というところでございますけれども、こちらとしても聞いていきたいと考えておりました。

具体的な内容については、これからやっていくこととなりますので、今日の会議資料の中では、ご説明できなかったのですが、そういったところでいろんな皆様の視点からの良い計画になるよう努めていきたいと思っております。ただ、柱立てとして記載することはちょっと難しいのかなと思っておりますので、何らかの形での表現をさせていただきたいと思っております。

2点目の経済的な支援のお話ですけれども、このアンケートをとった時期が今年の2月でして、その後で第2子以降保育料の無償化等の政策を打ち出したものですから、その辺りがまだ反映されていない段階でのアンケート結果になると思いますので、今アンケートを取れば、少しは違うかなと理解をしているところです。

なおかつ、委員がおっしゃったように、広報がちょっと足りなかったという反省もありましたので、子育ての施策に関する市としてのお知らせを、もっともっと知らせていくべきではないかと考えており、広報紙の活用も検討しているところです。そういった点での皆様へのご理解を深めていくということも考えていきたいです。

【議長】

はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

【委員】

質問になるのですが、資料3について自分自身が藤枝市在住なので、焼津市がこういうことやったださっているんだなと思いながら見ていたのですが、260の事業があって、例えば焼津市独自でこの子ども・子育て支援事業計画に基づいて実施している事業はどれなのかを知りたいと思ったのですが、太字になっているものとそれ以外のものとの違いについて教えてください。

もうひとつ実態として教えてもらいたいと思ったのですが、資料5のアンケート調査9ページ10ページのところで、「子育てしやすい街だと思う」と「しやすい街だと思わない」という項目が載っていて、「しやすい街だと思う」理由の中に「公園など子どもの遊び場が充実している」というのがあるのですが、本当に藤枝市と比べて駐車場が完備された綺麗な公園が多くて、すごく行きやすい良さがあるなと思っております。

反対に「しやすい場所だと思わない」理由の中で、幼稚園や保育所などが不足しているというところが特に多くなっています。

先日静岡の小学校の先生と話したときに、静岡だと学童に年齢制限があって、高学年だと入れないけれども親が働いているので預け先が欲しいということで、民間の施設を利用している子が多くて、放課後になるとお迎えの車が列になっているのが普段の姿になっているよという話があったのですが、そうした民間の学童の数とかを教えてください。

先ほど、地区によっては足りないところもあるというお話だったので、その辺りを教えてもらえたらと思いました。

【事務局 家庭支援課】

まず、放課後児童クラブの件でお話させていただきますが、焼津市においても民間の企業とかが自社で働いている方たちのための独自の放課後児童クラブを設けていたり、あるいは、預かりサービスをやっているということはある程度聞いており、おそらく静岡市でも、そういったものやあるいは民間が独自で開設している放課後児童クラブのようなものもあるということでは聞いてはいるのですが、完全に把握は出来ておりません。

あくまでも市が把握している数値については、焼津市が委託をして、各社会福祉法人

さん等に運営していただいている公立民営の施設については把握しているのですが、民間の事業者さん独自の事業内において開設するものについては、すみませんが、こちらの方で把握していないので、どれぐらいそういったものを利用いただいているかということがお答えできない状態であります。

年齢制限については、放課後児童クラブは6年生まで利用できるということにはなっているのですが、やはり入所の判定を行う中で、学年が低い方の点数が高くなってしまいうこともあって高学年の方はなかなか預かることが厳しいところはあるのですが、元々高学年になっていくと塾に行っている、あるいはスポーツクラブ等に通っているということで利用が少なくなってくるということも一つ要因があるかと思えます。

【委員】

ありがとうございます。民間の把握は難しいかなと思ったのですが、最初の2ページのところで未就学の母親が就労している割合が増加しているという説明があったので、ますますそういうニーズが高まってくるのではないかと思いました。

【事務局】

ご質問があった資料3の記載で太字とそうではない箇所についてですが、事業は県とか国の補助金をいただいたりして、財源を確保してやっていくのが一般的なんです、市が独自で取り組んでいるものや市が上乗せで実施しているものについて基本的に太字になっていると捉えていただければよいです。

【委員】

ありがとうございました。

【議長】

他にご意見いかがでしょうか。

【委員】

お願いします。子ども・子育て支援に関する調査結果から言うと、また貴重なデータかなと思っております。

実際その当事者になっていらっしゃる方たちの声が反映されているだろうと思う一方、回収率を見てみると未就学児と小学生の方は半数の回答ということで、調査方法として郵送だったり、インターネットとかで回答を求める形だと書かれていますが、やはりこういった回答になると、元々関心が高い人たちだったりとか、肯定的に評価されている方たちの回答が多くなって、サンプル、これが代表値にはならないだろうということも考えられます。では、一定的段階でも懐疑的な方たちはどんな回答をするのかなと思うと、決して今出ている結果にはならないだろうと思うので、こういったデータを取る際の回収率の上げ方も少し工夫していただいた方がより現状の生の声を聞きやすく、それをもとに次回の計画の検討材料になるのではないかと思ったのが一つと、子ども・若者の回収率が非常に低いかなと思いますので、その辺りの回収の仕方も御検討い

ただけたらいいのではないかと感じました。

【事務局】

回収率が低いというお話ですけれども、統計的には、回収率は高い位置づけになろうかと思えます。他市の回収率を見ても実は非常に積極的に皆さんご回答いただいているものですから、有効なアンケート調査になっているのではないかと考えます。

ただし、これで満足しているわけではございません。今回は回収率を上げる取り組みの一つとして、ウェブでの回答もできるような形で取り組みをさせていただいたものですから、少しずつ時代の流れに沿った形でアンケート調査をやって回収率を上げていきたいと考えております。

子ども・若者の調査については、確かにちょっと低いところがあるのですけれども、これに関しては、若者の方の回答が低くて、比較的年齢の高い方の回答が高いというところで、意外性があつたものですから、この辺りを今後の調査の中で参考にしていきたいと思っています。

【委員】

統計的には確かに有効な回答になるかもしれませんが、その回答率の中でサンプルに偏りがなにか、ということを考えていかがかということの問題提起として挙げさせていただいたとご理解いただけたらと思っております。

【議長】

その他ございますでしょうか。

その他ご意見無ければお聞きしたいのですがよろしいでしょうか。

ヤングケアラーについてのアンケート調査で、該当すると答えた方は3%となっていて、意外と低いなと感じました。学生の話の聞くと、小さい弟さんの面倒を見ていたり、あるいはおじいちゃんのことを見ていたり、あるいはお母さんとか1人親の家庭で自分が料理をしているみたいなことを聞くと、どの辺りまでをどういう風にヤングケアラーというところの数値というか、理解をあまりされてないのかなということがあるので、そういったところを今後どういうふうに伝えていっていただけるのかということと、もしそういうことがわかったときに、どんな支援を焼津市としては出来るのか考えていただきたいなと思っておりますが、いかがでしょうか。

【事務局 子ども相談課】

ヤングケアラーのことにつきましては、少しずつ市民の方とか様々な会社の方を通して、ヤングケアラーの認識というものをどう伝えていくかいろいろ研究しております。

なかなかヤングケアラーの概念が、お手伝いなのか、ヤングケアラーに当たるのか、そのラインが非常に難しく、その辺りをどううまく伝えていくかというので、本人の認識も変わりますし、いろんな講師ともいろいろ調べておりますので、うまく周知できればいいかなと思って今調査をしております。

基本的には子どもさんとか若者が、本来その方ができるべき、受けられるべき権利が

御家庭の家族の面倒を見ることによって、阻害されている、受けられるべきものが受けられないという状態があれば、それはヤングケアラーに当たるであろうと思います。

その辺りが周知できればいいと思いますけれど、もしそういう状態がその家があれば、何が困っているのか。親御さんとか、おじいさん・おばあさんの介護の関係で御家族が一生懸命やっていたらという現状が、もしかしたら市の介護の援助を受ければ、自分の生活時間が築けるような生活環境になるということもあれば、福祉的な支援を利用するように繋いでいたり、経済的に厳しいということがあれば、そういった福祉関係の支援に繋ぐこともできます。

その家の課題に対して救っていく手立ての制度に繋いでいくという形で、具体的には、それぞれの家庭の問題を個別に解決することになってくるかなと思っております。

周知につきましては、ヤングケアラーがどういう状況かイラストなど使ってわかりやすいようにホームページの方に掲載させていただいて、小中学校につきましては、どういう状況がヤングケアラーなのか、学生から子どもさんにもわかりやすいようなチラシを通じて、そういったときにはこういうところに相談するといよいよとわかりやすい形で周知をしております。

【議長】

大事な時間を本来あるべきでない他の方に費やしてしまうと将来を考えられないこともあるし、足かせになることもあるなと思ってます。

その辺りの支援をお願いしたいと思います。

他にいかがでしょうか。

【委員】

資料2のところでも地域子育て支援事業にも色々なサービスがあることを改めて知ったのですが、その中で、もっと保護者の必要な情報を知っていてくれるといいと感じました。妊娠期から本当に色々なサービスが充実していますので、困っている人が知っていらっしやらないのは、やっぱり残念だなと思います。それを伝えてあげてほしいと今日は改めて思いました。

また、資料5のアンケート調査が興味深かったです。学校としても保護者や子ども・若者がどんなことを考えているのかがわかってありがたかったです。驚いたのは、子ども・若者の現在の悩みごと・困りごとについてという問いに対して、「将来のこと」という回答が半数以上ということです。小学校の子どもたちの中にも、自分の将来の夢を持っていないのではと感じることがあるものですから、小学校の頃から、自分はこんな大人になりたいとか、こういう生き方をしたいとか、明るい未来が見られるようなキャリア教育をしていかななくてはいけないなと思いました。

【議長】

ありがとうございました。皆さんにいただいた御意見を参考に、今後の事務を進めていただきますよう、お願いします。それでは、本日の議事は以上です。委員の皆様、会議の進行に御協力いただき、ありがとうございました。